



## ボランティアニュース

219号 2022年2月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦與

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

### 「この春の思い」

つるし雛グループリーダー 草野 勝美

新しい年が明け、引き続きコロナ禍の毎日が続いています。

感染のリスクを感じる日々が、病気と闘う子どもたちや支え見守るご家族に、どれだけの制約やストレスをかけていることか?! 医療現場で働く皆さんに計り知れない緊張と不安を与えていることか?! 収束を願うばかりの日常には新年への輝く希望がなかなか見出せません・・・。

そんな毎日の中でも、オレンジクラブは病児達の成長と回復を心から願い、この春も、センター内の飾りつけをします。つるし雛のメンバーは、多くの皆さんから提供して頂いたたくさんの布地などを材料として、時間を費やし、心を込めてていねいな雛飾りに仕上げてください。

ご自宅で、つるし雛をつくられて届けていただく事も多くあります。色とりどりのつるし飾りがやさしい春の思い出になってくれるとどんなにか嬉しいことでしょう。

小さな笑顔が、大きく大きく広がってこの春をつつんでくれますように。



## 「オミクロン株感染拡大に伴うボランティア活動」

オレンジクラブ代表 三木美雪

コロナ感染症オミクロン株が猛威を振るっています。感染者の数も拡大を続けています。皆様さぞご不安な日々を過ごしておられる事でしょう。それにもまして、入院中のおこさんやご家族の皆様は厳しい面会制限もあり、また外来診療にみえる患者さんのごきょうだいは、センターに来ることもままならず、心身共にご負担も増していらっしゃると思います。

オレンジクラブでは、蔓延防止等重点措置が発令されましたが、ボランティアの感染対策を一段階厳しくして、1月29日まで活動を継続いたしました。こども医療センターと連携しまして、最新の状況を踏まえて、安心安全に活動ができるようオレンジクラブの皆様へ情報を発信してまいりました。日々増え続ける感染者数や医療の逼迫を考慮し、患者さん、医療スタッフと会員皆様の感染リスクを減らすため、1月31日から2月末までの期間活動自粛を決定いたしました。

1月中は、各グループが活動を続けてきました。ここでオレンジクラブの活動をご紹介します。重心ボランティアは、重症心身障害施設ひだまりで衣類の整理をする事が出来ました。ぽぽんたグループは、各病棟へ本の貸出活動は、中断となりましたが、オミクロン株もなんのその、リモートでのぽぽんたのお話会は継続しています。リモートで病棟のおこさんとお会いし、絵本を一緒に読むことができるのは、ぽぽんたのメンバーも心踊るひと時です。外来図書室も時間を短くして開室しました。親御さんが仲良く本を読んでいる姿をよく見かけました。こちら心温まるひと時です。外来ボランティアは、みなさんに快く使っていただけるよう、バギーを丁寧に隅々まで消毒クロスで拭きました。ご褒美の折り紙もおこさんに選んでもらいお渡しできました。いつもの見慣れた光景ですが、オレンジ色のエプロンの外来ボランティアが入口に立つ事も出来ました。園芸ボランティアも、屋上、重心施設、正面玄関での草花の手入れをしました。園芸ボランティア同様、色とりどりのパンジーが寒さに負けず元気に咲いています。外来でもフラワーアレンジメントボランティアが、季節のお花を活けました。縫製グループボランティアは、病棟から依頼のある縫製が必要な衣類などを、ミシンを軽やかに操り仕立てました。手作りグループの品は、患者図書室前マルシェと図書室の入り口2カ所で販売しました。皆さん楽しそうに覗いていかれます。ちょっとしたお買いもの気分を味わえます。作業グループのボランティアも、根気のいる作業をこつこつ正確にこなしました。新年の願いであふれた絵馬は、通路にあふれんばかりに飾られていました。絵馬は作業グループが一つ一つ工夫を凝らして作ってくれました。つるし雛グループとアートディスプレイグループボランティアは、一足早い春の訪れを病院にお届けしています。クリスマスツリーの可愛いテディベアでセンターの特別なクリスマスの演出をしてくれた手芸グループも、2022年のツリー飾りの新作制作に向けて始動中です。

オレンジクラブボランティアは、コロナ禍ではありますが、今まで積み重ねてきた経験を活かして、皆様の笑顔を思い浮かべながらお役に立てることを嬉しく思っています。しばらく活動が自粛となりますが、節分にちなんで、鬼と一緒にオミクロンが退散することを願っています。



## 「つばさの木」と「ひだまり」の入口を直しました！

原田和香（はらだわか：グラフィックデザイナー）

昨年、肢体不自由児施設と重症心身障害児施設の愛称が決まったとのこと。2011年に作った肢体の看板や、2019年に貼った重心の入口を直さなければ！と、慌てて伺ったところです。長い間「肢体」「重心」と呼ばれ呼んできましたが、優しい名前に心からほっといたしました。

十年前、私は小学5年生の時と中学2年生の時を、肢体で過ごしました。肢体と重心と横浜南養護やPT室は同じフロアにあって、眼下に広いグラウンドもある、旧建屋でした。当時「大人になったら車椅子10台！で恩返しができるかな」などと漠然と考えたことを覚えています。そしてちょうど10年前、フリーのデザイナーとして少し余裕ができた頃、久しぶりにセンターを訪問し、PTの先生からオレンジクラブをご紹介いただいたのが始まりでした。少しずつ様々な縁をいただき、センター内に壁画を制作しています。本館のエレベーター、つばさの木（肢体）の浴室・トイレ・処置室やお部屋サイン、ひだまり（重心）の浴室天井や入口への廊下、中央手術室への廊下と中扉、児童思春期精神科の外来、緩和ケア普及室、院内外泊室、地下のお見送りの廊下、そして各病棟の処置室…。

壁画は「私の作品」作りではなく、「みんなのホッと空間」になるよう心がけています。こども達はすでにめいっぱい頑張っていますから、元気を出して！明るい気持ちになって！頑張って！とメッセージを送るのではなく、ただただ安心してリラックスして過ごしてほしい。壁画もパワーのあるものではなく、やわらかく、さりげなく、空間全体が明るくなるもの、にしたいのです。そしてそれはこども達だけでなく、ご家族や、スタッフの皆さんのためにも…。

外来では今でも長～い待ち時間があると聞きました。こどもの頃、待ち時間は私も辛かった…。そんな時にセンター内の壁画探検はどうでしょう？いつか「探検マップ」を作りたいと密かに思っています。お楽しみに…。



写真上2枚は壁画制作中の写真　上段右QRコードは他の病院含め、これまでの制作の紹介動画の紹介  
写真下2枚は、修理して頂いた「ひだまり」井合施設長と「つばさの木」向出看護科長と一緒に原田さん

昨年秋に原田和香さんから今回の修理の件で、「今回は、ボランティアでやらせていただきたいが、出来ますか」とお話を頂きました。両施設に確認したところ、是非お願いしたいという事で話を進めてきました。開設以来、「重心」「肢体」の名前で通っていてなかなか「ひだまり」「つばさの木」が定着していない感じもしました。この度原田さんの活動で、訪問した方も入所している方にとっても「ひだまり」「つばさの木」と実感する良いきっかけになると思います。原田さんありがとうございました。

ボランティアコーディネーター加藤

## ぽぽんた通信④

きくちゃん

今年初のおはなし会は訓盲学園の中学生5人と先生5人。

グリムの昔話で「おいしいおかゆ」を聞いてもらった。5分ぐらいの短いおはなしだが、10人の聞き手はそれぞれの「おいしいおかゆ」を想像したようで、**おかゆ**談義が始まった。

中学生は**中華のおかゆ**が美味しいと言い、先生方は、1月は**七草がゆ**だと言う。

今まで大勢の人に、このお話をきいてもらった。

ある時、お父さんのおひぎでおはなしを聞いていた5歳ぐらいの男の子が、お口をもぐもぐしてしきりに何かを食べている。ちょっと心配になってお父さんにお口の中を見てもらった。

何もなし。あ～おいしい**おかゆ**をたべていたんだな～と安心して改めて 感心した。

おはなしの **おいしいおかゆ** は鍋から溢れ出て家中 町中が**おかゆ**でいっぱいになるのだ。

小学校のおはなし会の時、一人の子が「わー汚ったねー」と言いながら高い所に手を伸ばして食べていた。

きくちゃんのお**おかゆ**印象は子どもの頃、お腹を下したり、風邪をひいた時母が炊いてくれた**おかゆ**で熱くてフーフー吹きながらしょっぱい梅干しで食べたのを思い出す。

## 2月ボランティア活動予定

基本的にオレンジクラブの対面での活動は自粛です。ZOOM等のオンラインでの活動になります。

\*2日 9日 16日 23日 (水) ぽぽんたおはなし会各3病棟で開催 (ZOOM)

\*10日 5西・24日 4西 (木) SOC しゅんさくさんと遊ぼう (ZOOM)

外来ミーティング・ボランティア調整会議は中止

3月7日 (月) ボランティア運営会議はオンラインで開催予定



(フラワーアレンジメントとアートディスプレイの活動)